
桃の旗

黒龍椿

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

桃の旗

【Nコード】

N8865L

【作者名】

黒龍椿

【あらすじ】

新宿ゴールデン街の自称・夜鷹ママ、椿と新宿ゴールデン街の「キング」の物語り。

夜鷹のあたしと「キング」のあなた

今はひとり。

夜鷹みたいなあたしは新宿ゴールデン街の自分の店のカウンターに立って客を待っている。

「まだ8時か…。」小さい溜め息をそっとついた。
今から仕事や人生に疲れた人を癒すためにあたしは働く。

この街で、この仕事がしたくてずっと頑張ってきた。

着物を着て、年甲斐もなく黒髪でおかっぱのあたしはいつもかわいい。
い。

そうじゃなくても、そう思わないとこの街では生きていけない。

そう、この新宿の狭いとおしい「ジェントル・ビースト」な街では…。
は…。

…カランカラン
店のドアが開いた。 「いらっしやい〜♪」

冷蔵庫から氷を出しながら振り向くと、店に来たのは「キング」だった。

「…。久しぶりですね…。」

…時が止まる。

キングはいぶかしげにゆっくりと椅子に座ると、重い口を開いた。

「…。いいな…。お前は。やっぱり…。」

??????

5年ぶりにあって意味がわからない。

まあ、元々意味がわからない事だらけの人だけど…。

あたしが、びっくりして時を止めているとキングはあたしの目をじつと見つめてこう言った。

「お前…。本当にいい女になった。」

不意に畳み掛けられたキングの言葉にまた時が止まる。
あたしの鼓動は全身に響いている。

「…。ありがとうございます…。何、飲みますか…?」

「話をちゃんと聞けよ!」

意思の強い言葉をまた畳み掛けられた。今度は激しく。

「じゃあ、何て言えばいいんですか…？」

顔が紅く火照っていくのが自分でもわかる。

「…。5年前の事覚えているか…？」

俺がお前に説教して、お前に伝わらなかった時の事だ。」

「はい。」

下を向きながら答えた。

未だにあの事件を思い出すと胸が痛い。

あの頃は…。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8865/>

桃の旗

2010年10月17日07時32分発行